

はくさんさん

洋明上人 大荒行成満

第65号 平成20年3月
伊豆市法住寺 瓜島信行 発行

全ての力を鬼子母尊神に委ね、真摯にひたむきに、清浄に清浄にと寒水を被り続けた姿は輝きを増し、大きな力を伝えていた。帰山奉告する洋明さんに、宗祖のお弟子としての上人をみたのである。

*
百日の修行から苦修練行（どんな苦しみや困難にも立ち向かう力をつける）だけでなく、余分なものを剥ぎ落とし浄化し続けた祈りの力が伝わった。それは大きな力であった。素直に「頼れる人、頼れる場所、頼れる大黒柱 頼れるお題目」をもつことの幸せを思った。それは勿論、私だけのものでなく、檀信徒の皆さんのものでもある。ご先祖さまから受継いだお題目という大黒柱を持つ檀家としての幸せを素直に思った。

これも檀信徒の皆さんが洋明さんを育て

てくれたからと改めて思う。自分の進む道を悩んでいた高校生の時、お会式準備で竈の火を焚くハラのおばあちゃんの言葉に推されるものあつて決心。今までも事ある毎に皆さんが応援してくれた。今回の荒行にもどれだけ多くの皆さんが祈り励まし、自分のことの様に支援してくれたことか。皆さんが、朝な夕なに無事を祈ってくれた、その力が集まって大きなエネルギーとなり、洋明さんに感応し苦しく大変な修行を成し遂げることができたと思う。本当にありがとうございました。

*
私たちは帰山式で輝く頼もしいお上人をみたことは確かであるが、人間は弱いものである、まだまだこれから。皆さんの生活の中で役立つ法華経、お題目となるよう、また人となるよう新たな歩みが始まります。皆さまのご支援、ご鞭撻が必要となります。これからも宜しくお願い致します。そして共に歩んでいきましよう。

日洋



帰山式でも大勢の皆さんの
お力を頂きました

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

洋明さんの百日間の修行中は、会う方、会う方が「ひたすら無事を祈っています」と声を掛けて下さいました。かけがいのないその方々の御心に感謝しながら、私はこの方々に「幸あれ」と祈ったものです。この百日間は私自身にも大きな教えをもたらしてくれました。

*
思い返せば、一日に何度も時計を見る自分でした。

今、夜十一時の水行が始まっている……。夜半、風の音に目覚

め、もう三時の水行が始まっている……。雪の夜は外に出て空を仰ぎ、この寒さの中の水行はいかばかりか等々。

一日に何度も思いを馳せながらも、不思議に何時もより頑張れる自分が居ることに気付いたのです。雪の降る日に本堂の回廊の雑巾がけ。凍える中での庭掃除。朝から夜まで無心に働き、何時もより頑張れる自分が居ることに、ある日気付いたのです。

誰よりも果敢に激しい修行を重ねている洋明さんも、檀信徒の方々の祈

つてくれるその御心が支えだったと言われ
ました。

*

誰かが誰かを思う時、人は思うことで強
くなれる。また誰かに思われる時、人は更
にもっともつと強くなれる。そういう教え
を学ぶことができた私にとつても、尊い百
日間でした。

私は自分流に「静かな勇氣」と名付けま
したが、これから生きていく中で出会う、
いろいろな苦難の時も、この「静かな勇氣」
を思い返しながら乗り越えてみたいと思い
ます。

感謝お迎えバスで中山

二月九日夜十一時に出発。雪の為の交通
規制、事故規制があったので出発を少し早
めたが、そうした規制も解除され、バスは
深夜の東名高速を順調に進んだ。

午前二時中山着。駐車場から法華経寺ま
ではかなりの距離であったが、成満旗を持
つて深夜の住宅街を黙々と歩く。境内に着
くと既に延々と成満旗が立ち、投光機に静
かに照らされていた。旗立用の柵は既に塞
がっていて一つも残っていない。行列して

くる洋
明さん
が気付
き易い
様にと、
大きな
桜の木
に成満
旗を括
りつけ
終え、

瑞門まで行ってみると丁度三時の水行が始
まるところであった。その水音を聞いて、
目頭を押さえる人人。

その後ひとまずバスに戻りひと休み。五
時を過ぎ、いよいよお迎えである。先ほど
旗を立てた桜の木まで行くと、周りに沢山
の旗が立ち並び、洋明さんの旗が見えにく
い。もう手で持って待とう。大洋、采海の
子供たち、次男の洋次も加わった。

六時、いよいよ待ちに待った瑞門が開き、
成満である。遠くからお題目の音が聞こえ
始めた。徐々に近付き、人々のざわめきも
大きくなってきた。行列の先頭が見え始め、
法華経寺の貫首さん、伝師、先輩僧とゆっ
くり目の前を通っていく。列は進むが、な
かなか洋明さんが見えてこない。「あつ！

成満旗を立て開門を待ちます



洋明さん、お疲れさま



洋明さん！

洋明さんも気
づきほんの少
し立ち止まり
合掌、絞り出
した声でお礼
の一言。お互
い慶びに満ち
ていた。

その後、重

要文化財の祖
師堂で成満会、迫力ある読経に感激。十一
時頃バスに乗り帰路についた。三連休のこ
ともあり、東名は混み事故渋滞。三島に着
いたのは夕方であった。洋明さんは次の日

行堂から出て家族と



やっと笑顔に



に静岡市で帰山式があるので途中下車。遅い昼食となったが、参加の二十人余の皆さんと、ゆつくりと温かいものを食べ、やつとホッとできたのでした。夢中な、そして貴重な一日でした。皆さんお疲れさまでした。ありがとうございました。

帰山式 簡素な中に心をこめて

洋明さんたち行僧一行は、仮親の山下一護持会長さんのお宅に到着。ご祈願、先祖回向した後、行列を組んでお寺に向かいました。万灯講・白龍会の皆さんの鉦と太鼓、十二日講、蓮華の会、檀信徒、親族がその後続きます。平日にもかかわらず沢山の方々が行列に加わって下さり、慶びの大行列となりました。

お寺に着いた後は水行です。この日の朝の冷え込みは一段と厳しく、水行桶の周りには今年一番の大きな霜柱。そんな中、身心を清浄に清浄にと気合を込めて寒水を被りつけます。その清めた心身で読経するのです。その経力はこの法住寺の山全体に

玉沢の小池貫首さま
から祝辞



檀信徒・護持会から
修法用具の贈呈



及び、またご祈願された御札に込められたのです。

帰山式が始まり、力強く清浄なお経が本堂に満ち、法樂加持、帰山奉告文とつづきます。感激しましたと多くの檀信徒が興奮顔で語ってくれました。立派なお上人の誕生でした。

星野宗務所長、中野宗会議員、新谷修法師会長、本山玉沢妙法華寺小池貫首猊下と来賓寺院の祝辞を頂き、住職、洋明、護持会長の謝辞。辛い事も沢山あったが檀信徒の皆さんが祈り励まして下さったから、何とか成し遂げることができたと洋明からお礼の言葉。山下一護持会長さんからは来賓参列寺院への御礼に続いて、檀信徒が良くまとまってくれ、今日の帰山式を行うこと

ができたこと慶びと感謝の言葉があった。その後、特別祈禱を受け、何か凄くスッキリ、とても身が軽くなったのでした。出仕して下さった行僧さん方が、行列の凄さとお寺の奇麗さ、清浄な雰囲気に関心、殊に熱心な檀信徒の皆さんに感激していました。

プレゼント、お知らせ

(一) 災害、福祉募金、

それぞれへ

昨年、新潟県柏崎市周辺で起こった「中越沖地震」では、沢山の被害がでました。柏崎は日蓮聖人が佐渡からご赦免になりお帰りになった時の着船の霊跡地です。

その柏崎の東城寺さんは住職とご縁のあるお寺ですが、山門、本堂ともに崩壊、多大な被害に遭われました。そこで本堂に募金箱を置いたところ、一万三千百九十円のお気持ちを頂きました。これに住職の気持ちを加えて郵送致しました。

また社会福祉募金もお願いしてありましたが、こちらは八千九百円あり宗務所の社

教会へ届けました。宗務所でまとめ、国際救護基金と地元の福祉施設にお届けすることになっていきます。ご協力、誠にありがとうございます。これからも救援箱を置きますので宜しくお願い致します。

(二) これからの主な行事予定

①お寺の年間行事

三月二十日(木) 午後二時 春の彼岸会
五月六日(火) 午後二時 花まつり
八月三日(日) 午後三時 お盆施餓鬼会
八月初旬 寺子屋「少年、少女、一泊」
九月六日(土) 伊豆連合大題目講
九月二十三日(火) 午後二時 秋の彼岸会
十月二十六日(日) お会式
十二月七日(日) 中伊豆立正会大題目講

②境内整備作業

春三月十六日・元村三、夏七月・元村一、
秋九月・西、暮十二月・清水一

(三) 花まつり

お寺の登り道にあるコナラの大木、冬空に

堂々と枝を伸ばしてきましたが、もう細かい芽を開いています。新緑の淡い葉を一杯につた頃、花まつりです。石楠花、シヤガの群生が咲き、銘木オオムラサキのツツジが満開になります。お釈迦さまの誕生をお祝いし、お花見しましょう。

五月六日(火) 午後二時「連休最後の日」

(四) 身延輪番

実施日 五月二十五日(日)
会費 一万一千円(高校生以下五千円)
年に一度は身延山にお詣りしましょう。



清明さんのおはなし

十一月一日より二月十日までの百日間、おかげさまで日蓮宗大荒行を無事に成満することができました。

一日一日がとても長い百日でした。朝三時より夜十一時まで水行・読経三昧、特に自行期間の初めの三十五日間は、ほとんど記憶にありません。ただはつきり感じたことは、入行の際、

行の出来る喜びに感謝し涙が止まらなかつたこと。読経中、鬼子母神さまを拝し有難さと嬉しさで無意識に涙が溢れて来たこと。そして何より辛く苦しいとき、お送り式、お見舞団参、成満会、帰山式そして心温まる励ましのお手紙を下さった壇信徒の皆さんが、いつも私の中にいて勇氣や励ましを下さったことです。見えないところで手を合わせ無事の成満を願ってください。心に残り下さった皆さん気持ちを、自分にはもつたないほどに感じさせて頂きました。本当に本当にありがとうございます。

また皆さんには私だけでなく、百日間残された家族も支えて頂きましたこと感謝申し上げます。妻・幸代が百日間欠かさず付けていた日記を読み、私同様、皆さんの支えや励ましを頂けたからこそ、家族が共にこの百日間を乗り切れたのだと感じました。日記の最後に「ありがとう」書いてありました。この「ありがとう」には残された家族の百日間の様々な思いが詰まっています。

これからは百日間の経験、修法を活かし、皆さんを支えていけるよう、そして共に歩んでいけるような僧侶を目指し精進いたします。これからも宜しくお願い致します。

御志納金「一月〜二月」

二十万円 大仁 山本芳子殿 尊父佐藤博殿納骨砌
十万円 西 山田邦光殿 両親七回忌砌